



中部の

# エネルギーを 築いた

# 人々

“わが人生は闘争なり”の松永安左工門

—その5：独立自尊、生涯在野の松永哲学—

松永安左工門が電気事業の九電力体制を固めた後も、燃えるような闘志をもって日本の復興再建の構想を実現していった。一方、松永は学術文化についても情熱を注ぎ、サミュエル・ウルマン「青春」の翻訳や、英国の歴史学者アーノルド・トインビー著「歴史の研究」全巻の翻訳を手がけた。また、最後の仕事として国づくりというテーマに対して「産業計画会議」を主宰し提言をまとめた。

今回は、①サミュエル・ウルマン「青春」の翻訳 ②アーノルド・トインビー博士著「歴史の研究」の全巻翻訳 ③電力中央研究所の設立 ④産業計画会議の提言等を紹介する。

## サミュエル・ウルマン「青春」の翻訳

原作はアメリカの詩人サミュエル・ウルマン(1840-1924)で、マッカーサー元帥が太平洋戦争中マニラに赴任する時、友人でコーネル大学のルイス教授から送られたこの詩を、座右の銘として執務室に飾っていた。松永が元帥の執務室を訪問した時に、額に入っていたこの詩を見て感動し翻訳したと言われている。また、ロバート・ケネディーがエドワード・ケネディーへの弔辞にウルマンの詩の一節を引用し有名になった。参考として末尾に原

文と翻訳文を掲載した。

(参考)サミュエル・ウルマン

(1840~1924)

1840年、ドイツに生まれ、1851年アメリカに移住した。1860年、南北戦争に南軍として従軍。1920年80歳の誕生日に家族がウルマンの詩集「80年の歲月の頂から」を出版。アラバマ州バーミングハムに「ウルマン記念館」がある。

## アーノルド・トインビー博士「歴史の研究」の全巻翻訳

哲学者で仏教学者の鈴木大拙博士が、「日本人は頭でっかちで世界的なものを見るところが欠けている。歴史の研究を広く読ませることが一番の良薬である」と述べているのを知り、松永は何となくしてこの本を出版できたらと考えた。松永は1954(昭和29)年、渡英の際、トインビー博士に原書で6,000ページにおよぶ著書の翻訳刊行の許可を得た。

帰国した松永は、私財を注ぎこみ翻訳陣を整え1966(昭和41)年に日本語版の第一巻を刊行した。その後、生前に22巻を刊行し、1972(昭和47)年に全巻が翻訳され完了した。

このことは松永が日本文化に寄与した大きな遺産の一つであり、日本翻訳史上に残る偉大な壮挙であった。

1967(昭和42)年、トインビー博士夫妻が来日した時、夫妻をホテルに訪ね歓談し、トインビー博士は、松永を「戦国の覇者・織田信長、豊臣秀吉、徳川家康をはるかに凌ぐ大きな業を成し遂げた人物」と評した。そして、1971(昭和46)年6月16日、松永安左工門の死去の知らせを受け、「世界中の友と共に惜しむ」と哀悼の意を送った。



トインビー博士と松永安左エ門  
(出典：電力の鬼松永安左エ門展)

(参考)アーノルド・ジョゼフ・トインビー  
(1889~1975)

イギリスの歴史家。1911年オックスフォード大学卒業。アテネ考古学院の研究生としてギリシャに行き、帰国後、母校でギリシャ・ローマの古代史の授業を担当。1914年の第一次世界大戦の勃発により「われわれは歴史の中にいる」と云う実感に目覚める。1929年に太平洋問題調査員として来日、王立国際問題研究所理事などを勤める傍ら「ギリシャ歴史思想」「平和会議後の世界」などを執筆、最も有名な著書が「歴史の研究」25巻である。

(参考)A. J. トインビー博士との寄せ書き

●トインビー博士書

The heart of the mystery of the universe cannot be approached by

one read only

… Quitine Anvelins Symmockans, the last spokesman of the pre-Christian religion of Greece and Rome

\*宇宙の神秘神髄は、到底一人の頭脳を持っては極めることができない。

… クインティン・アンベリンズ・シカモンズ、キリスト教以前のギリシャ・ローマ宗教における最後の代弁者

●松永安左エ門書

長空不礎白雲飛

\*白雲は悠々として大空を泳ぎ、何物も遮るものはない。



トインビー博士との寄せ書き  
(出典：電力の鬼松永安左エ門展)

## 電力中央研究所の設立

松永は、「電力経済ならびに電力技術の調査、研究を盛んにするため、必要なる機関を新設または拡充し、さらなる専門家の養成も行い、電気事業の健全なる進歩発展が必要不可欠」と考え、戦時中に国が電気事業に介入した苦い経験を元に、電力経済ならびに電力技術の研究開発を一切の外圧に影響されることなく効率的に実施するための研究機関の設立を構想した。

この理念のもと9電力会社と電気事業再編成審議会は、日本発送電の資産を基に1951

(昭和26)年11月に電力技術研究所を設立した。理事長に前日本発送電総裁の大西栄一が就任し、130名でスタートした。当初、技術の調査研究を目的に設立されたが、松永は、「より適切な料金体系を電力会社に提言し、一般業務の効率化にも寄与できるような電力分野の併設及び諸計算機の整備が必要である」と考え、電力技術研究所の研究内容に電力経済に関する研究を行う電力経済研究部門を追加して、名称を翌年7月に「電力中央研究所」に変更した。

松永は、1953(昭和28)年4月から1971(昭和46)年6月まで、電中研の2代目理事長に就任した。ここに1957(昭和32)年、電力中央研究所狛江本館が竣工した時、全職員に送った書簡を紹介する。

「電力中央研究所に付き、

予が24余年前、東邦産業研究所の所長となりし時、産業研究は知徳の錬磨であり、もって社会に貢献すべきであることを悟った。但し科学の進歩は累積と推理に由り無限の発達を遂げる性質の物であり、18・9世紀に入りはるかに人類は其面に躍動して蒸気利用の発明、電気の発明、科学の発明又は是等の応用に革新的進歩を為した。近くは原子力、水素の融合反応等、或いは人工衛星に至るまで、科学的進歩は無限に続くのである。

しかし利己的人間性は、社会的にはなほ4千年前の哲人と比し何等の進境を示していない。是は人間の悲劇である。

諸氏能く之を知り内面的な人間性の錬磨を科学の研究と共に続けられん事を祈るものである。

1957年10月22日  
喜多見に於いて  
松永安左工衛門」

さらに、1968(昭和43)年、国際的に協調して研究開発を促進するため、松永の提唱によりIERE(The International Electric Research Exchange=電力研究国際協力機構)を設立した。

2012(平成24)年4月、電力中央研究所は一般財団法人として、東京都千代田区大手町に本部・社会経済研究所、狛江市に知的財産センター・システム技術研究所・原子力技術研究所、千葉県我孫子市に地球工学研究所・環境科学研究所、神奈川県横須賀市に電力技術研究所・エネルギー技術研究所・材料科学研究所、群馬県前橋市に赤城試験センター、栃木県塩原市に塩原実験場などの研究拠点がある。総勢は約836名、その内、研究者が737名、414名が博士取得者である。そして松永安左工門の理念「産業研究は知徳の錬磨であり、もって社会に貢献すべきである」により研究開発を進めている。

#### (参考)東邦産業研究所

東邦電力(株)が1937(昭和12)年、財団法人東邦産業研究所を創立。1940(昭和15)年に東京試験所(現在：慶応義塾志木高等学校所在地)を竣工し、各種産業に関する基礎的研究によって得た成果の中間試験を行い、応用普及を図り国益の増進に資する事を目的に設立された。

## 産業計画会議の提言

産業計画会議は、松永が主宰し1956(昭和31)年3月に戦後日本の再建を目的に発足した私設シンクタンクである。設立時に「各界の造詣の深い方々から、その知識と経験をお借りして、わが国産業経済の動向と産業拡大の規模について深い調査と研究を進め、日本産業はいかなる姿のものでならなければならないのか、その理想的形態に到達するにはいかなる国民的努力が結集されなければならないか」について、政府、政党に対抗するつもりはなく、世論へのPRの役割の機関もかねたのが、この計画会議であると述べた。

1956(昭和31)年から1968(昭和43)年まで、16のレコメンデーション(勧告)を提言



産業計画会議の総会

(出典：電力の鬼松永安左工門展)

した。その主なものは、「エネルギー対策」「東京一神戸間高速自動車道」「国鉄の民営化」「専売公社の廃止」「北海道の開発問題」「海運業

再建案」「沼田ダム建設」「東京湾埋め立て計画」などであった。まとめ上げた提言は記者発表を行い、衆参両院、関係省庁や関係大

臣に送られた。これらの厳しい提言の内容は、多くの反発を受けることもあったが、今日振り返るとその8割がほぼ実現されている。

### 資料1：「青春」の詩の翻訳

#### YOUTH

Youth is not a time of life. It is a stage of mind. It is a temper of the will, a quality of imagination, a vigor of the emotions, a predominance of courage over timidity, of the appetite for adventure over love ease.

Nobody grows old by merely living a number of years; people grow old only by deserting their ideals. Years wrinkle the skin, but to give up enthusiasm wrinkles the soul. Worry, doubt, self-distrust, fear and despair ... these are the long, long years that bow the head and turn the growing spirit back to dust.

Whether seventy or sixteen, there is in every being's heart the love of wonder, the sweet amazement at the stars and the star-like things and thoughts, the undaunted challenge of events, the unfailing childlike appetite for what next, and the joy and the game of life.

You are young as your faith, as old as doubt;  
as young as your self-confidence, as old as your fear;  
as young as your hope, as old as your despair.

So long as your heart receives messages of beauty, cheer, courage, grandeur and power from the earth, from man and from the infinite so long as you are young.

When the wires are all down and all the central place of your heart is covered with the snows of pessimism and the ice of cynicism, then you are grown old indeed and may God have mercy on your soul.

Samuel Ullman

#### 青春

サミュエル・ウルマン原作  
松永安左工門訳

青春とは人生のある期間をいうのではなく心の様相を言うのだ。逞しき意志、すぐれた創造力、炎ゆる情熱、怯懦を却ける勇猛心、安易を振り捨てる冒険心。こういう様相を青春というのだ。

年を重ねただけで人は老いない。理想を失う時に初めて老いがくる。歳月は皮膚の皺をますが、情熱を失う時に精神はしぼむ。苦悶や狐疑や、不安、恐怖、失望、こういうものこそ恰も長年月の如く人を老いさせ、精気ある魂をも芥に帰せしめてしまう。

年は70であろうと、16であろうと、その胸中に抱き得るものは何か。日く、驚異への愛慕心、空に閃く星晨、その輝きにも似たる事物や思想に対する欽仰、事に処する剛毅な挑戦、小児の如く求めてやまぬ探究心、人生への歓喜と興味。

人は信念と共に若く、疑惑と共に老ゆる  
人は自信と共に若く、恐怖と共に老ゆる  
希望ある限り若く、失望と共に老い朽ちる

大地より、神より、人より、美と喜び、勇気と壮大、そして偉力との靈感を受ける限り人の若さは失われない。

これらの靈感が絶え、悲歎の白雪が人の心の奥までも蔽いつくし皮肉の厚氷がこれを固く閉ざすに至れば、この時にこそ人は全くに老いて神の憐れみを乞う他はなくなる。

(寺澤 安正)